



バリアフリーナビ
プロジェクト

資料3

教育分野との連携について

令和3年12月

政策統括官付

1. 実証の狙いと実施概要

今年度は、学校の授業にバリアフリー情報の収集を組み入れ、継続的に情報が収集・更新される仕組みを構築すること、及びその仕組みを全国の学校に面的に広めることを目標に事業を実施。

モデル校2校での実証を行い、小中学校、高校で実施可能なプログラムを作成。

教育プログラム化の目標

- 学校教育で持続的にデータ収集・更新に取り組む仕組みの構築
 - 学校の授業としてバリアフリー情報の収集組み入れられることで、学区内の情報が継続的に収集・更新される仕組みを構築
- ↓
- 学校教育での普及方策の検討
 - 学校でバリアフリー関連データの収集・更新の取組を点ではなく面的に広めるため、バリアフリー教育プログラム実施推進のための普及方策を検討。



モデル実施校・実証概要

実施項目	高校向け	小中学校向け
実証フィールド	山形県立 酒田光陵高校	神戸市立 稗田小学校
対象者	ビジネス流通科 2年生 33名	小学5年生 107名(3クラス)
授業科目	「マーケティング」 「商品開発」	「総合的な学習」
実証日程	2021年10月26、29 日	2021年11月24日～ 12月16日 (※現在実施中)
授業時間	50分×8コマ	45分×10コマ
ツール	歩行空間ネットワークデータ整備ツール	

2. 教育プログラムの構成と当日の様子

教育プログラムでは、障害当事者から障害の基礎知識を学んだ後、学校周辺の公共施設や施設に至る経路のバリアフリー調査を行い、整備ツールに情報を登録。

調査で発見したまちのバリアフリーに関する課題やその解決策について話し合い、発表を行った。

教育プログラムの内容

題目	内容	時間
心のバリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> 障害当事者を交えたバリアフリーに関する講義 	1.5コマ (75分)
調査計画	<ul style="list-style-type: none"> 道路と施設の調査すべき項目の説明 調査時の役割分担 調査エリアの説明 整備ツールの使い方のレクチャー 	1.5コマ (75分)
校外授業	<ul style="list-style-type: none"> 整備ツールの使い方のレクチャー 車いすの使い方の説明 校外での調査(1時間半程度) 	3コマ (150分)
とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 大判用紙によるとりまとめ 	1.5コマ (75分)
発表	<ul style="list-style-type: none"> 各グループ3分間で発表(調査で気が付いた問題点と課題、具体的な解決策) 	0.5コマ (20分)

授業当日の様子



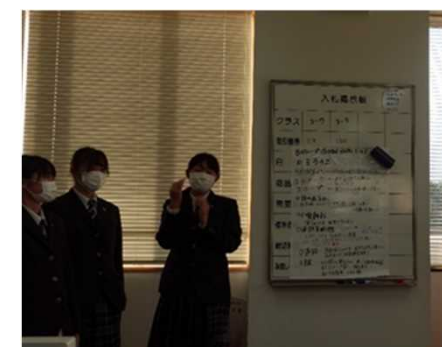
バリアフリーに関する講義



道のバリアフリー調査



施設のバリアフリー調査



まちの課題や解決策を話し合い～発表

※当日の様子の紹介動画(4分程度)

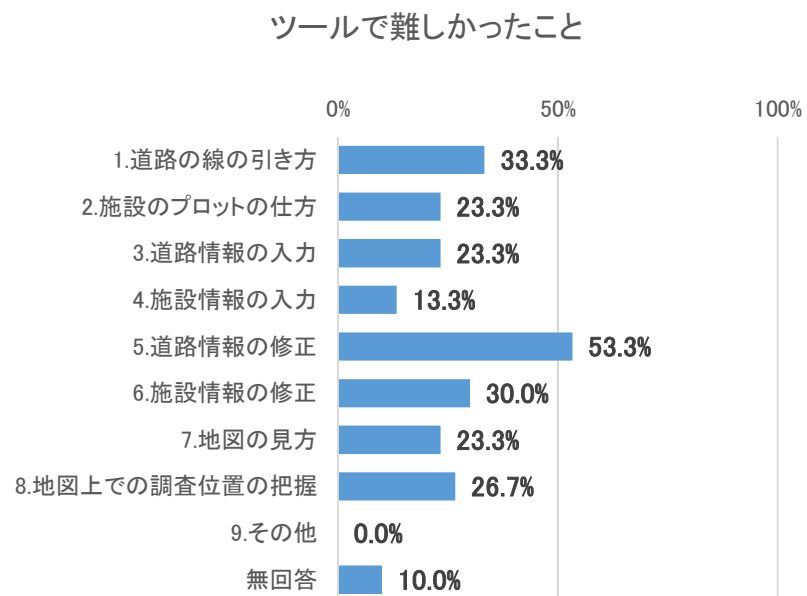
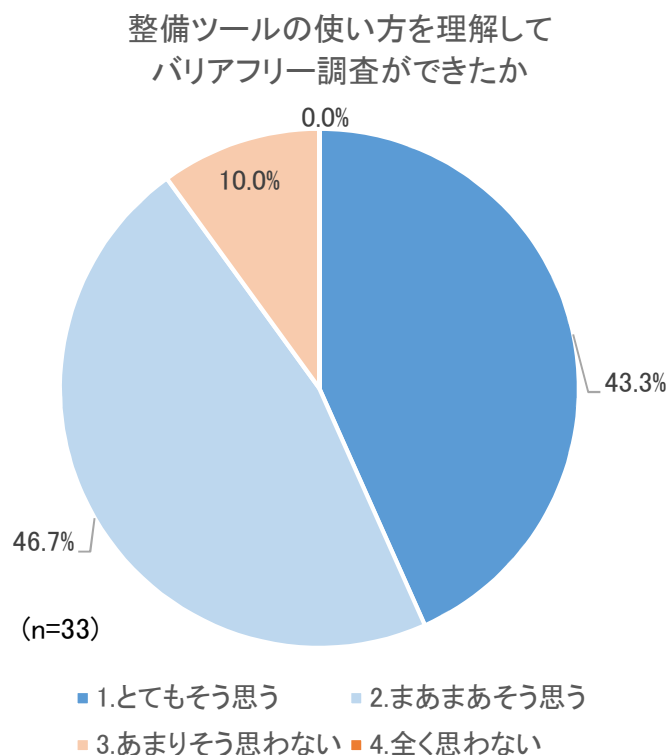


3. 教育プログラム実施結果①

参加した高校生33名を対象としたアンケートでは、参加者全体の90%が、整備ツールの使い方は理解して調査ができたと回答している。

他方、整備ツールについて、リンク(道路の線)の入力や入力したデータの確認・修正に戸惑っている場面もあったため、今回の利用した際に躓いた点を踏まえ、整備ツールのユーザーインターフェースは改善が必要。

整備ツールに関するアンケート結果



- リンク(道路の線)の作成する際に、地図をスクロールできない、経路のデータと施設のデータを同時に参照できない等のUI上の課題
- 調査をしながら同時にデータを入力することが大変等の意見もあった

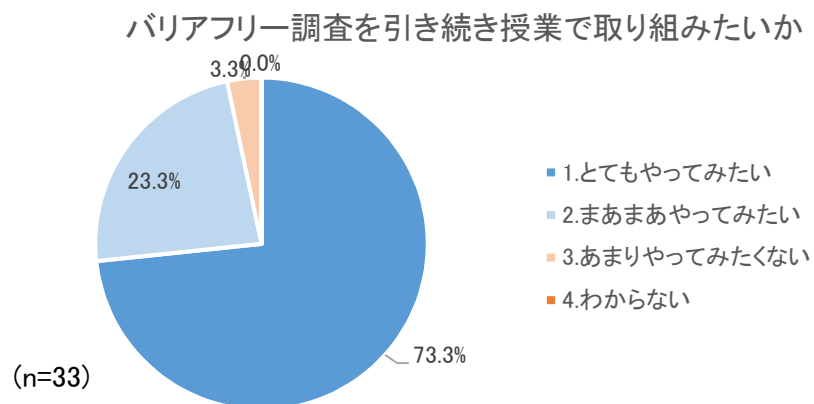


3. 教育プログラム実施結果②

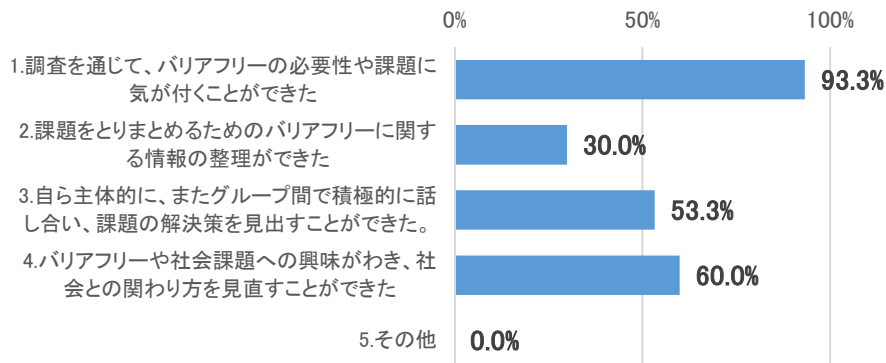
参加した高校生の96%が今後もバリアフリー調査を授業で行いたいと回答しており、教員からも他のクラスも含めて引き続き実施したいという声があった。

教育プログラムの時間数やツールの改善等は必要だが、プログラムを通して、高校生がバリアフリーの必要性や課題への気づき、社会的な課題への興味や社会との関わりを感じる事ができたことが教員からも評価されている。

授業に関するアンケート結果



授業を通じて得られたこと



生徒・先生からの意見

高校生の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 道ががたがたで車いすに乗ったまま一人で行動できないと思った。周りの視線等、車いすに乗ってみて気づくことがたくさんあった。 このような機会がなければ、バリアフリーという言葉を知っているだけになっていた。体験をしてみて課題をたくさん見つけることができ、とても充実した。 全国の高校と協力し合って、日本全体のバリアフリーについて調べ、障害者の方がもっと暮らしやすい場所にしたいと思った。
教員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒達は、バリアフリーの観点から道路や施設を調べたことで、これまで気が付かなかったことに多く気が付くことができた。 社会的な課題が見える化し、探究できたことは生徒にとってもやりがいがあったが、とりまとめの時間はもっと時間が取れるとよい。 バリアフリー調査、車いす体験を行いながら、整備ツールを現地で入力することは大変だった。ツールはより見やすく・操作しやすくなるとよい。 他のクラスでもやってみようという声もある。 実証で終わりにせず、これをきっかけにバリアフリーに関する授業は今後も進めていきたい。



4. 今後の普及展開に向けた検討

小学校での実証の結果や教員へのヒアリングを踏まえプログラム案をブラッシュアップするとともに、教育プログラムを面的に普及されるための普及方策や普及にむけた連携先の検討を行う。

具体策として、教育啓発特定事業のガイドラインの作成が進められているため、今回実施した教育プログラムをガイドラインの中に位置づけ、全国の市町村への横展開を図る。

普及方策の検討

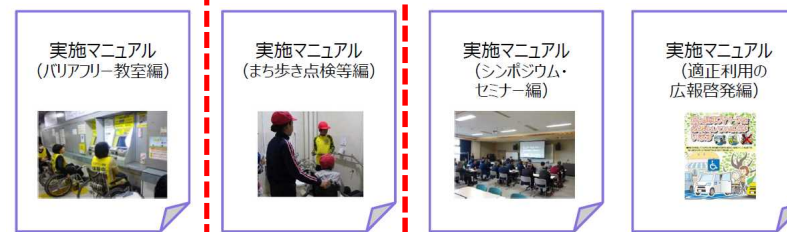
- 教育プログラム普及方策の検討
 - 教育プログラムの普及に向けて、普及の際の連携先や方策(仮説)を検討。
 - 学校や、教育委員会、障がい者団体、事業者などの関係者ヒアリングを通じて、教員等に幅広く周知できるための周知策や広報コンテンツを整理。
- 教育啓発特定事業ガイドラインとの連携
 - 教育啓発特定事業ガイドラインへ、教育プログラムの内容を掲載し、面的普及を図る
 ※ガイドラインに掲載する内容/役割については、関係課と別途協議する。

教育啓発特定事業ガイドライン

- R2バリアフリー法改正により創設された教育啓発特定事業について、実施主体となる市町村向けにガイドラインは、バリアフリー教室等の取組内容ごとに事業の実施方法、参考事例等を取りまとめたガイドラインを整備
- 今回実施した、教育プログラム及び学校と連携した歩行空間ネットワークデータ整備を、**ガイドラインのまち歩き点検の事例として掲載し、全国の市町村への展開を図る**

調査概要

教育啓発特定事業ガイドライン



まち歩き点検等編で教育プログラムを紹介

全国の市町村で展開

アウトプット

- 普及方策案
- 教育啓発特定事業ガイドラインでの紹介



参考資料)酒田光陵高校アンケート結果

3. アンケート結果 1. 教育プログラムの理解度

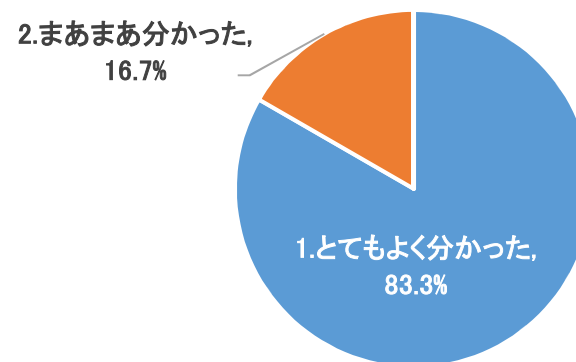
① バリアフリーへの理解

- 回答者数の83%にあたる25名の生徒が、“とてもよく分かった”と回答しており、残りの5名も“まあまあ分かった”と回答しているため、本実証を通じて、参加した生徒全員が、バリアフリーについての理解を深めることができたと回答している。

問

あなたは授業を通じて、バリアフリーについて、理解することができましたか。(1つに○)

回答項目	回答者数	割合
1.とてもよく分かった	25	83.3%
2.まあまあ分かった	5	16.7%
3.あまり分からなかった	0	0.0%
4.分からなかった	0	0.0%
合計	30	100.0%



3. アンケート結果 1. 教育プログラムの理解度

②道路や施設の調査するバリアフリー情報への理解

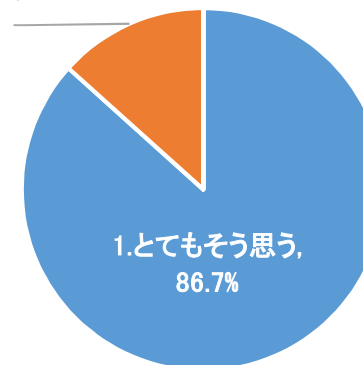
- 回答者数の87%にあたる26名の生徒が、“とてもそう思う”と回答しており、残りの4名も“まあまあそう思う”と回答しているため、本実証を通じて、参加した生徒全員へ、道路や施設の調査するバリアフリー情報への理解を深めることができたと回答している。

問

あなたは、バリアフリー情報(車いすでも利用できるトイレや車いすで通れるスロープ、エレベーターなど)が何かを理解して調査することができましたか。(1つに○)

回答項目	回答者数	割合
1.とてもそう思う	26	86.7%
2.まあまあそう思う	4	13.3%
3.あまりそう思わない	0	0.0%
4.全く思わない	0	0.0%
合計	30	100.0%

2.まあまあそう思う,
13.3%



3. アンケート結果 2. 整備ツールの入力可能性

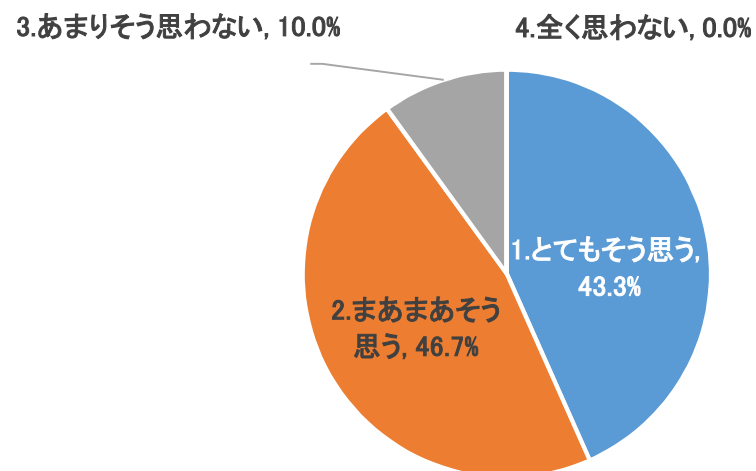
①整備ツールの使い方への理解

- 回答者数の47%にあたる14名の生徒が、“まあまあそう思う”と回答し、次いで回答者の43%にあたる13名が“とてもそう思う”と回答しており、全体の90%は、整備ツールの使い方は理解できたと回答している。

問

あなたは、整備ツールの使い方を理解して使用することができましたか。(1つに○)

回答項目	n= 30	
	回答者数	割合
1.とてもそう思う	13	43.3%
2.まあまあそう思う	14	46.7%
3.あまりそう思わない	3	10.0%
4.全く思わない	0	0.0%
合計	30	100.0%



3. アンケート結果 2. 整備ツールの入力可能性

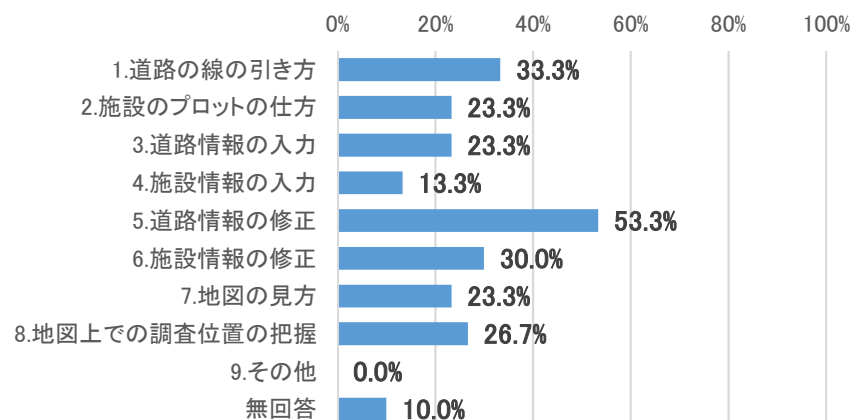
②整備ツールの操作で難しかったこと

- 回答者数の53%にあたる16名の生徒が、“道路情報の修正”が難しかったと回答している。
- 次いで、回答者の33%にあたる10名が“道路の線の引き方”、回答者の30%にあたる9名が“施設情報の修正”が難しかったと回答している。

問

あなたは、整備ツールで難しかったことはありますか。(あてはまるもの全てに○)

回答項目	回答者数	割合
1.道路の線の引き方	10	33.3%
2.施設のプロットの仕方	7	23.3%
3.道路情報の入力	7	23.3%
4.施設情報の入力	4	13.3%
5.道路情報の修正	16	53.3%
6.施設情報の修正	9	30.0%
7.地図の見方	7	23.3%
8.地図上での調査位置の把握	8	26.7%
9.その他	0	0.0%
無回答	3	10.0%



3. アンケート結果 3. 実証の成果

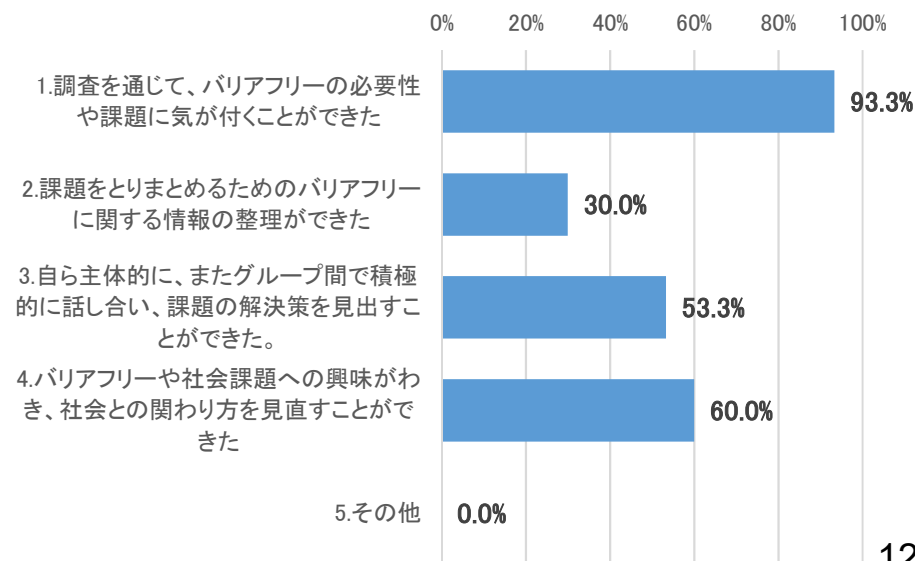
①バリアフリー情報収集調査にてできたこと

- 回答者数の93%にあたる28名の生徒が、“調査を通じて、バリアフリーの必要性や課題に気が付くことができた”と回答している。
- 次いで、回答者の60%にあたる18名が“バリアフリーや社会課題への興味がわき、社会との関わり方を見直すことができた”、回答者の53%にあたる16名が“自ら主体的に、またグループ間で積極的に話し合い、課題の解決策を見出すことができた”が難しかったと回答している。

問

あなたが今日の調査でできたと思ったことは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

回答項目	回答者数	割合
1.調査を通じて、バリアフリーの必要性や課題に気が付くことができた	28	93.3%
2.課題をとりまとめるためのバリアフリーに関する情報の整理ができた	9	30.0%
3.自ら主体的に、またグループ間で積極的に話し合い、課題の解決策を見出すことができた。	16	53.3%
4.バリアフリーや社会課題への興味がわき、社会との関わり方を見直すことができた	18	60.0%
5.その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%



3. アンケート結果 3. 実証の成果

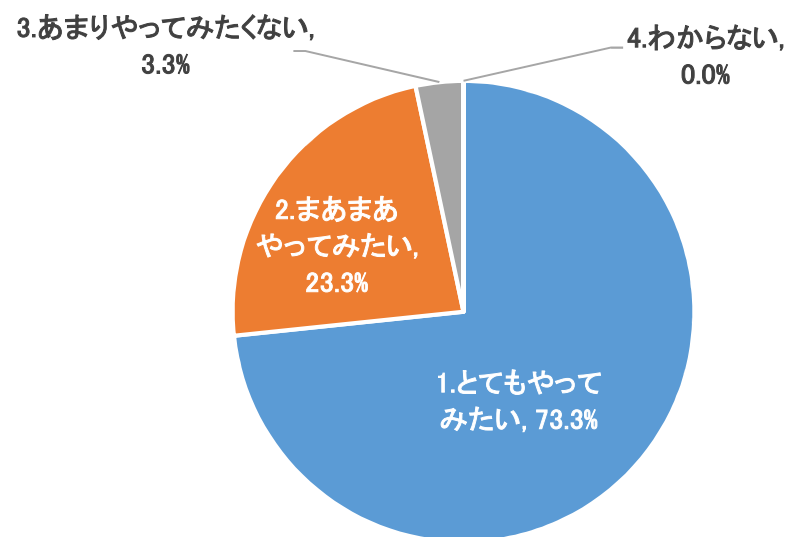
②バリアフリーに関する事業の継続実施意欲

- 回答者数の73%にあたる22名の生徒が、“とてもやってみたい”、次いで、回答者の23%にあたる7名がが“まあまあやってみたい”と回答しており、全体の96%は、バリアフリーについての授業を引き続きやってみたいと回答している。

問

バリアフリーについての内容を引き続き学校の授業でも取り組みたいですか。(1つに○)

回答項目	回答者数	割合
1.とてもやってみたい	22	73.3%
2.まあまあやってみたい	7	23.3%
3.あまりやってみたくない	1	3.3%
4.わからない	0	0.0%
合計	30	100.0%



3. アンケート結果 3. 実証の成果

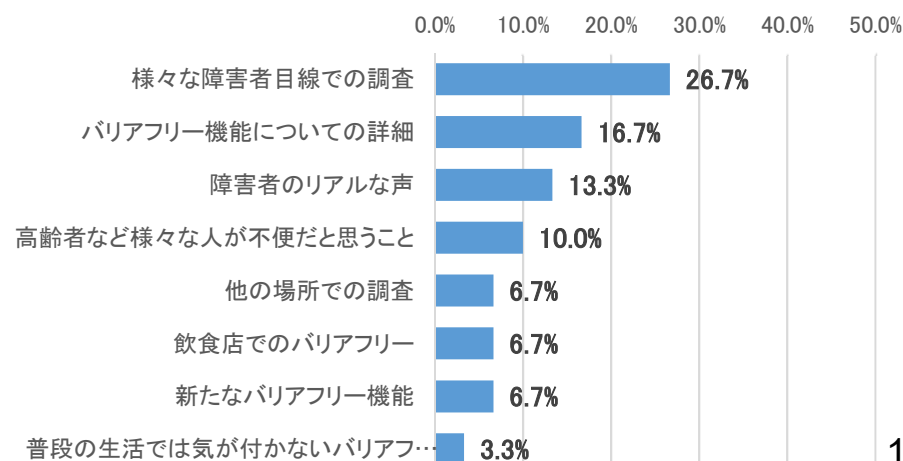
③バリアフリーについて調査したいこと

- 自由回答内容を分類すると、回答者数の27%にあたる8名は、車いす体験を利用しながら調査を実施したこともあり、車いす利用者以外で、視覚障害者、聴覚障害者など“さまざまな障害者目線での調査”への実施意欲があると回答している。
- 次いで、回答者数の17%にあたる5名が点字ブロックや音声ガイド、エレベータなど“バリアフリー機能についての詳細”を調べたいと回答している。
- また、“障害者のリアルな声”がもっと聞きたい、“高齢者、妊婦、外国人などが不便だと思うこと”を知りたいなどの回答があった。

問

バリアフリーについての内容について、今日勉強したこと以外にもっと調べてみたいことはありますか。(自由記述)

回答分類	回答者数	割合
様々な障害者目線での調査	8	26.7%
バリアフリー機能についての詳細	5	16.7%
障害者のリアルな声	4	13.3%
高齢者など様々な人が不便だと思うこと	3	10.0%
他の場所での調査	2	6.7%
飲食店でのバリアフリー	2	6.7%
新たなバリアフリー機能	2	6.7%
普段の生活では気が付かないバリアフリー機能	1	3.3%



3. アンケート結果 3. 実証の成果

③バリアフリーについて調査したいこと

問

バリアフリーについての内容について、今日勉強したこと以外にもっと調べてみたいことはありますか。(自由記述)

主な意見

回答分類	回答項目
様々な障害者目線での調査	<ul style="list-style-type: none"> • 車イスの方以外にも、眼が見えにくい人、高齢の方、足が不自由な方(松葉杖など)のバリアフリーにも特化しているのか調べたい。 • 車イス利用者だけでなく、眼、耳の不自由な人にも大事なバリアフリーを調べたい。 • 目の不自由な人が見えている世界を体験できるゴーグルを使ったものや、足に重りを付けるなどして調べてみたいと思いました。
バリアフリー機能についての詳細	<ul style="list-style-type: none"> • 点字ブロックや音声ガイドについて、詳しく調べたいと思った。 • 目の見えない人用に作られている点字を調べてみたい。
障害者のリアルな声	<ul style="list-style-type: none"> • どんな課題があるのか、その解決に必要なことは何か、障害を持った方と関りながら色々と考えていきたい。 • 実際に車イスに乗っている方と一緒に活動してみたい。
高齢者など様々な人が不便だと思うこと	<ul style="list-style-type: none"> • 障がい者の方だけではなく、お年寄りや外国人など色々な人が不便だと感じることをもっと知っていきたい。 • 子ども～お年寄りまでの日常生活の中のバリアフリーについて調べていきたい。

3. アンケート結果 3. 実証の成果

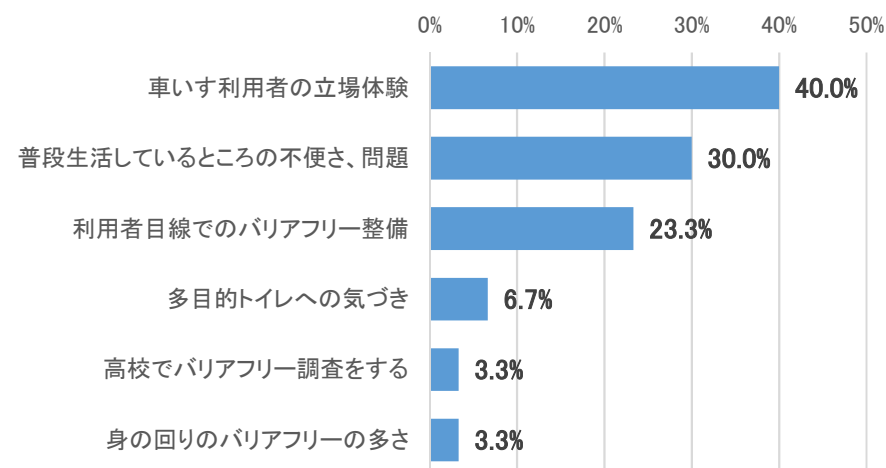
④本実証にて印象に残ったこと、伝えたい事

- 自由回答内容を分類すると、回答者数の40%にあたる12名が、車いす体験を利用しながら調査を実施した目、“車いす利用者の立場体験”ができたことが印象に残ったと回答している。
- 次いで、回答者数の30%にあたる9名が“普段利用している道路や施設が不便で合ったり問題がある”という気づきがあったと回答している。
- また、“利用者目線でのバリアフリー整備”が必要といった回答がある他、全国の高校で協力し合って、日本全体のバリアフリーについて調べたいなどの回答があった、

問

今回の授業全体の感想(一番印象に残ったことやみんなに伝えたいことなど)を自由に書いてください。(自由記述)

回答分類	回答者数	割合
車いす利用者の立場体験	12	40.0%
普段生活しているところの不便さ、問題	9	30.0%
利用者目線でのバリアフリー整備	7	23.3%
多目的トイレへの気づき	2	6.7%
高校でバリアフリー調査をする	1	3.3%
身の回りのバリアフリーの多さ	1	3.3%



3. アンケート結果 3. 実証の成果

④本実証にて印象に残ったこと、伝えたい事

問

今回の授業全体の感想(一番印象に残ったことやみんなに伝えたいことなど)を自由に書いてください。(自由記述)

主な意見

回答分類	主な意見
車いす利用者の立場体験	<ul style="list-style-type: none"> • 道が本当にかたがたで車いすに乗ったまま一人で行動できないと思った。また周りの視線だったり、乗ってみて初めて気づくことがたくさんあった。 • 自転車でも大変な所は車イスにとっては倍以上に大変だった。 • 普段私は何気なく当たり前のように通っている道でも、車イスに乗って通ると危ないと感じることが何回もあった。
普段生活しているところの不便さ、問題	<ul style="list-style-type: none"> • 普段生活している時と少し視野を変えて街内を見るだけで見え方が全く違って見えたことに驚いた。 • このような機会がなければ、バリアフリーという言葉を知っているだけになっていた。体験をしてみて課題をたくさん見つけることができ、とても充実した。
利用者目線でのバリアフリー整備	<ul style="list-style-type: none"> • 何かバリアフリーのものを作るなら、車イスの使用者や視覚障害を持っている人などと考案するのが一番良いと思った。
多目的トイレへの気づき	<ul style="list-style-type: none"> • オストメイトのトイレを始めて見た。今はまだBFTイレがない場所があるので、すべての場所にBFTイレがあればいいと思った。
高校でバリアフリー調査をする	<ul style="list-style-type: none"> • 全国の高校と協力し合って、日本全体のバリアフリーについて調べ、障害者の方がもっと暮らしやすい場所にしたいと思った。